



こどもの矯正

第26回日本成人矯正歯科学会大会

大会長 石野 善男

今年の冬季五輪で日本チームは冬季大会としては過去最多のメダルを獲得しました。選手自身の努力による卓越した身体と強靱な精神に加え、日本が文化として培ってきたチームワークの良さが世界に示されました。もちろんこのような結果を得るためには選手達自身が日頃から健康に注意を払ってきたことが基礎にあったのだと思います。

昔に比べて日本社会における衛生環境が整い、個人の栄養も豊かになりました。さらに事故や病気に対する医療に加え、予防医療も進んだことなどにより WHO の世界保健統計で日本は男女の平均寿命が 83.7 歳で世界一の金メダルだそうです。さらに健康寿命についても男女平均 74.9 歳で世界一だそうです。大変すばらしいことではありますが、この平均寿命と健康寿命の差の約 10 年で寝たきり世界一にもなったようです。

健康に生きるということは、それに必要な栄養を取り続けることですが、理想ではその栄養を生まれて死ぬまで口からとれることが望ましいと言われています。このことから歯科は最近、「健康の入り口の医療、食べる力を通じて、生きるを支える医療」と言われています。平成元年からスタートした「8020 運動」は 80 歳で 20 本以上の歯を保つことですが、8020 達成者のお口を拝見すると、歯並びと噛み合わせには大きな問題がないことがわかりました。しかしながら、この歯並びと噛み合わせがこのように整うには条件があります。また、不正咬合（歯並びや噛み合わせが悪いこと）のほとんどは、子供の頃に「種」があることが多いのです。

この講演では、この見過ごしがちなお子さんの「不正咬合の種」について、日頃から必要なチェック項目についてお話します。さらに子供に必要な矯正歯科治療についても詳しくお話します。

子供のうちから備えて、将来、介護、寝たきりにならずに、楽しく活動的な人生を送りたいものです。



おとなの矯正

特定非営利活動法人 日本成人矯正歯科学会

理事長 小谷田 仁

一般的矯正歯科治療の目的は叢生（乱杭歯）、出っ歯（歯および顎の前突）や受け口を治すことによって、咬合の審美性と機能性（咀嚼、発音）を改善することにあります。

そして、大人の矯正（成人矯正）の目的は、加齢現象と疾病および咬合機能不全によって崩壊していく咬合に対して、回復的な成人矯正治療をほかの学際領域と連携して行うことにより、不正咬合を改善し、形態と機能の安定性を維持することにあります。

ところで、米国（USA）は世界に先駆けて矯正歯科が普及した国です。健康で美しい歯を持つ『デンタルIQ』の高い人は、すなわち社会的ステータスが高い人だとみなされる傾向があります。きちんとした身なりをするのと同様、歯並びは就職や昇進にも影響を及ぼしかねない、重要な印象を周りに与えるとされますが、何故でしょうか？

米国の文化は笑みからコミュニケーションが始まります。他人種、多言語のこの国では笑みは相手に、私は危険な人物ではありませんと安心感を与えるのです。

今回の講演では、大人の矯正歯科の特殊性、加齢や歯周症に伴う咬合の崩壊と全身の健康、そして、これらの治療を支える大人の現代矯正歯科治療のイノベーションについて話させて頂きたいと思えます。